

# 第一回 古朝鮮と檀君神話

## 1. 先史時代

朝鮮半島に人が住み始めたのは、旧石器時代のことである。この時代の人々は、火を用い、石を打ち割った打製石器を使い、狩猟や漁で生活していた。この時代は数十万年にわたって続いた。

朝鮮半島では現在、30ヶ所以上から旧石器時代の遺跡が発見されている。代表的な遺跡としては平安南道祥原(상원)郡黒隅里(검은모루)洞窟があげられ、握り斧形石器などが出土している。これは約60～40万年前のものとする。

さらに時代を下り紀元前6000年頃、地球の温暖化に伴って定着生活が行われるようになると、打製石器から発展した磨製石器と土器を使用する新石器時代がはじまった。新石器時代の遺跡は主に沿岸部や大きな川の流域に位置しており、洛東江流域や西海岸など各地域で文化圏を形成していたことが判っている。当時の人々は農業と家畜の飼育を行い、さまざまな土器を作っていた。

## 2. 青銅器時代

朝鮮半島では紀元前1000年頃に、青銅で作った道具や武器が使用されはじめた。この時期を青銅器時代と呼ぶ。

代表的な青銅器としては銅剣と銅鏡がある。銅剣は琵琶型銅剣(遼寧式銅剣)が遼東半島から平安道を中心に広く出土しており、やや時代が下ると細型銅剣が南部を中心にして出土ようになる。このことから、青銅器時代初期に北方から青銅器文化が半島へと広がった後に、紀元前4世紀頃に錦江流域から南部を中心にした細型銅剣の文化が現れ、北の琵琶型銅剣の文化と併存しながら発展していったと考えられている。

青銅器時代に入って、生産は飛躍的に向上した。より鋭く精巧な木器や石器が作られ、新しい道具や武器が開発された。紀元前6～7世紀頃からは本格的な稲作が始められ、水田が作られ灌漑が行われた。長方形の竪穴式住居を作り、新石器時代よりも集落の規模が拡大された。人口が増え、人々はより農業に適したなだらかな丘陵地帯に住むようになった。

また、剰余生産物が蓄積され私有財産の概念が出来たことにより、貧富の差が生じ、階級や権力が形成され始めた。集落間の戦争が頻繁に起こり、防衛施設を備えた環壕集落が作られ、こうした生活の変化は、女性の社会的地位を低落させることになり、男性を中心とした社会へと変わっていった。原始共同体社会が崩れ階級社会へと移行し、より大きな権力集中は古代国家を形成する基礎となった。

青銅器時代の代表的な遺跡としては고인돌(支石墓)が挙げられる。고인돌は、巨石を埋葬墓の上に載せたもので、多くの労働力を必要とするものである<sup>1</sup>。この時期の父系世襲による君長の権力を押し量ることが出来る。

紀元前4世紀頃から鉄器が使用され始め、北部の慈江道龍淵洞(룡연동)遺跡などでは、

---

<sup>1</sup> 北部では大きな板石で巨石をテーブルのように支えるものが多く、南部では巨石を小さな石で支える基盤式と呼ばれるものが多い。

中国の燕の貨幣が発見されている。紀元前1世紀頃には鉄器が広く普及し、青銅器時代も終わりを告げることになる。

### 3. 檀君神話と古朝鮮の成立

わが国の歴史上、最初に現れた古代国家は古朝鮮(고조선)だった。古朝鮮は遼東地方に起こり、近隣の諸小国を併合して領土を広げながら青銅器時代後半に古代国家を作り上げた。古朝鮮が位置したところは、早くから農業が発展し、海産物と鉱物が多く産出する地域だった。

古朝鮮の建国を伝える檀君(단군)神話は、わが民族の始祖神話として広く知られている。『三国遺事』<sup>2</sup>(삼국유사)に記されている檀君神話は、古代国家である朝鮮が成立した過程を象徴的に描写している。我々は、檀君王儉が建てたと伝えられる朝鮮を近世の朝鮮と区別して古朝鮮と呼ぶ。

天から降りて来たという桓雄集団と熊集団の連合で古朝鮮は成立した。古朝鮮の支配者である檀君王儉は祭政一致の君長であって、自分の祖先を天と結びつけてその支配を神聖視させた。檀君王儉は千五百年間も国を治めたといい、檀君が支配する古朝鮮の歴史が長い期間続いたことが分かる。

檀君神話は、朝鮮が中国と同じく長い歴史を持った国であるという民族的自負心を持つ基礎となった。特に檀君神話を現在の形にまとめた高麗時代は遼<sup>3</sup>や元<sup>4</sup>の侵略を受けた時代であり、檀君神話は民族の危機に際し人々の心のよりどころとなった。また近年では、平壤近郊において檀君の墓(檀君陵)とされる遺跡が発掘調査され、関心を呼んでいる。この檀君陵は、以前から檀君の墓であるという言い伝えが残っており<sup>5</sup>、今回の発掘で一組の男女の骨が発見された。

この時期の青銅器文化の広がり、遼東半島から朝鮮半島南部に至る広汎な地域にわたっており、特に遼寧地方から朝鮮半島西北部にかけての地域が青銅器文化の先進地域とされ、権力形成が早くから行われていた。古朝鮮が広い領域に影響を及ぼしていたことが分かる。

朝鮮はその後、中国戦国時代の燕と遼寧地方で境界を分かち、大国へと成長した。

### 4. 衛満朝鮮

紀元前2世紀初、辺境を守る有力者であった衛満<sup>6</sup>(위만)は、次第にその勢力を伸ばした。やがて貴族達の紛争を利用して、王儉城に攻め込み、紀元前194年に準王(준왕)を追放し自ら王となった。これが衛満朝鮮である。準王は船に乗って南に逃れ、辰国(진국)で韓王となったと言う。

<sup>2</sup> 高麗の高僧一然(일연)(1206-89)が、1280年代に編纂した私撰の歴史書。

<sup>3</sup> 内モンゴル、中国東北部および華北を支配した契丹人(キタイ人)の王朝。916-1125年。

<sup>4</sup> 中国を支配したモンゴル民族の王朝。1260-1368年。大元ウルスとも呼ばれる。

<sup>5</sup> 1530年に編纂された『新增東国輿地勝覧』では平安道江東県に檀君墓と民間で伝わる大塚と書かれている。

<sup>6</sup> 燕からの亡命者1000人を率いて来た実力者であったが、朝鮮式の髻(상투)を結び、夷服を着ていたことから、朝鮮人であったと考えられている。

衛満朝鮮では鉄器文化が普及した。さらに周辺の小国である真番・臨屯を服属させ、南方の辰国や中国山東半島との間の貿易路を制圧し、漢との貿易による利益を得た。

一方、対外積極策をとる漢の武帝は、強大になった朝鮮が匈奴<sup>7</sup>と手を結ぶことを恐れ、衛満の孫である右渠王（우거왕）へ服属するように迫った。しかし右渠王はそれを受け入れようとせず、独立国として漢と対峙した。

漢は大規模な軍事行動を起こし、海陸両面から朝鮮へ攻め入り、朝鮮の首都である王儉城を包囲した。朝鮮は漢の侵略に対して一年余の抵抗を行ったが、一部貴族が漢に懐柔され内紛を起こし、ついに紀元前 108 年、首都が陥落し衛満朝鮮は滅んだ。

## 5. 古朝鮮の社会

この時期の朝鮮社会は、奴隷制社会であった。頻繁な部族間戦争が起こった結果、強大な集団が近隣の弱小集団を征服し、奴隷として働かせた。

奴隷は財産の一部であり、主人が墓に葬られる時には、多くの武具や装飾品とともに、墓についていかなければならない存在であった。紀元前 8～7 世紀の遺跡である遼東半島の崗山墓（강산무덤）からは 860 点以上の青銅器とともに 140 人以上の人骨が発掘されている。このような大きな権力を持った君長達が、古朝鮮の権力を作り上げた。

社会の階級は君長達や下級官吏などの支配階級と、一般平民、奴隷から成り立ち、平民達の中には農民や、手工業者、中国からの商人などが居た。君長達は多くの奴隷と大きな領土を所有し、奴隷と平民達を搾取した。

古朝鮮は王のもとに、博士・裨王・相・大臣・将軍などの官職があったが、彼らは古朝鮮内の有力君長だったと考えられている。特に裨王や相は王に準ずる諸侯であり、国王に対し独自の権力を保持していた。古朝鮮は彼らを中心に国家機構と官僚制度が整い、大規模な軍事行動を可能とした。

---

<sup>7</sup> 紀元前 3 世紀半ば頃から約 500 年間にかけて北アジアに繁栄した遊牧騎馬民族。中国の北方にしばしば侵入し、漢の武帝は大々的な討伐戦争を行った。